

くらがね通信

No.83 (秋号)

乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

2021年10月18日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

秋の里山小道 石仏探訪に参加して

金澤都子

恵まれた秋空のもと、石仏と秋空に癒されたくて「里山こみち石仏探訪」に参加させていただきました。少し横しまな動機でしたが、「案内人」の方々の誘いに、心がふわんとタイムスリップ。

水を守るぞと、たくましい揺らぎのない不動明王。庚申信仰のもと、人に宿る罪を天帝に告げないよう、災難などから守る青面金剛。よしよし、何でも話してみなさいと、すべてを包み込む地蔵菩薩。人々の暮らしを見守り、寄り添う道祖神などなど。脈々と心に刻み込まれてきたいにしえからのDNAが、むっくりと起きてきたようなタイムスリップでした。

案内人の方々のあたたかい口調のお話に、石仏達の物言わぬ優しさに、参加された方々の笑顔に、あきあかね飛び交う秋空に、心から癒された探訪のひとつときでした。

一年に一度がとても残念です。ありがと

うございました。

杉山 知子

石仏の事は何も知らない私が、丹生川の千光寺地区の事に興味があり参加してみました。石仏には色々な種類があり、一つ一つ意味があってルーツがあり、知ることができて楽しかったです。

そのほかにも、山城や戦国時代の話、丹生川の歴史、里山と鳥の関係など興味をそえられるものがあり、もっと探求したくなりました。

また、このような機会に参加できる事を楽しみにしています。

そして、乗鞍岳と飛驒の自然を考える会には色んな方がいて、引き出しが多いのでとてもたのしそうな会だと思いました。今



道祖神と地蔵菩薩



五本杉の不動明王

飯綱明神

日は一日ありがとうございました。

尾崎裕子

天気恵まれ、集まったのは34名。会員外の方も沢山参加されている。五本杉の横に地蔵菩薩二体と西国八十八ヶ所の巡拝塔があるが、八十八ヶ所は「ふるさとを歩こう会」で回ったことがあり、今日は石仏を見る会。五本杉を少し下り、左を見上げると不動明王が鎮座ましまっている。今日見て回った石仏の中では大きいものだが、教えてもらわないと存在に気がつくことはない。

田口さんに歴史を、住さんに石仏の説明を聞きながら五本杉の坂を下る。ここは八丁坂といい昔の参拝道だが、車道ができた今は歩く人もいないらしく草が茂っている。一丁ごとにお地蔵さまがあるというが、山側は草と木が茂り見つけるのが難しい。

庚申塔、大悲観音、地蔵菩薩九体を見たのち昔の古道に入る。人一人歩けるくらいの道幅でやはり草が生い茂っている。眼下に車道が走っているが、昔はそこまで山だったといい、この道が生活道だったのだろう。幅が狭く荷があれば大変だったと思われる道だが、その昔が偲ばれ思いをはせる。

観音堂でお昼を済ませ、それから歩いた古道も背丈の高い草が茂り、先頭を歩いたらヌスビトハギやキンミズヒキのひつつき虫が全身にまとわりついた。道祖神もあり、その昔乙女？だった頃、安曇野の道祖神を見て歩いたことを思い出す。道祖神は心をほっこりさせ、口元が緩むのはなぜだろう。

車道へ出ると雲一つない真っ青な青空で、春木山だったという緑の木々とのコントラストが美しい。足掛け13年の両親の介護で、石仏巡りも2時間や半日で帰ったりと、1日参加できたことは数少なく、今年母が亡くなり、家のことも気にせずこんなにゆっくり石仏巡りをしたのは初めてかもしれない。

最初に見た不動明王のように、石仏の存在がわかると次から意識して見ることがで



きるのは、参加して教えてもらえたおかげ。古道も良かった。武田軍が陣を張ったという、悠久の時の流れも感じる事ができた。見事に晴れた青空を仰ぎ見ながら、気持ちも解放された1日だった。

最後に見た不動明王（右写真）は小さいが憤怒の表情もしっかりしている。後日新聞に、一席に入った会員の西さんの

**明王の 憤怒の相もやわらかに 秋の
陽浴びる村の石仏**

が紹介されていた。今回、西さんは参加されていなかったが、思わず今日の石仏探訪の歌ではないかと思ってしまった。



飛驒の峠【その13】

木下喜代男

千光寺峠（柏原峠） 吉城方面の人々が千光寺参りに利用した峠

偏屈者の筆者は、以前から人がいない山を好んで登っていたが、このコロナ禍でその避衆登山が推奨されているので面白い。コロナ禍は、人類が資本主義とグローバリズムに浸って欲望を制御できなくなり、経済第一主義にひた走っていることに対する警鐘かもしれない。人間がこの世界の主役と勘違いした「人間中心主義」がこの事態をもたらしたと思う。大いなるものが我々に、人間と自然の関係を見直す課題を与えたのではないだろうか。さて、日本人がまだ自然を敬い、貧しいながらも自然と共に暮らしていたころの話へ。

平湯峠の上にある輝山（てらしやま・2063m）から長大な尾根が西へ延びている。途中には、金森時代の鷹狩りの場であったという広大な八本原、十二ヶ岳（1326m）があり、さらに西へ延び、千光寺を経て宮川へと落ちている。この尾根は昔「幽霊街道」と呼ばれていたが、人里の街道を通ることができない犯罪者、非差別集団などの哀れな人々が夜間に通ったらしい。

十二ヶ岳から宮川までの尾根上には、折敷地集落から大萱集落へ越す恵比寿峠、大沼集落から大萱への大萱峠（別名巡見使街

道）、三之瀬集落から桐山集落へ抜ける三之瀬峠（峰越え一里の峠）、柏原集落から千光寺を経て下保集落へ下る千光寺峠がある。

このうち旧峠が自動車道路になっているのは恵比寿峠のみで、あとは皆長年の役目を終えてヤブに埋もれつつある。今までに大萱峠、三之瀬峠は歩いたが、千光寺のそばにある峠が残っていたので入ってみた（地図）。

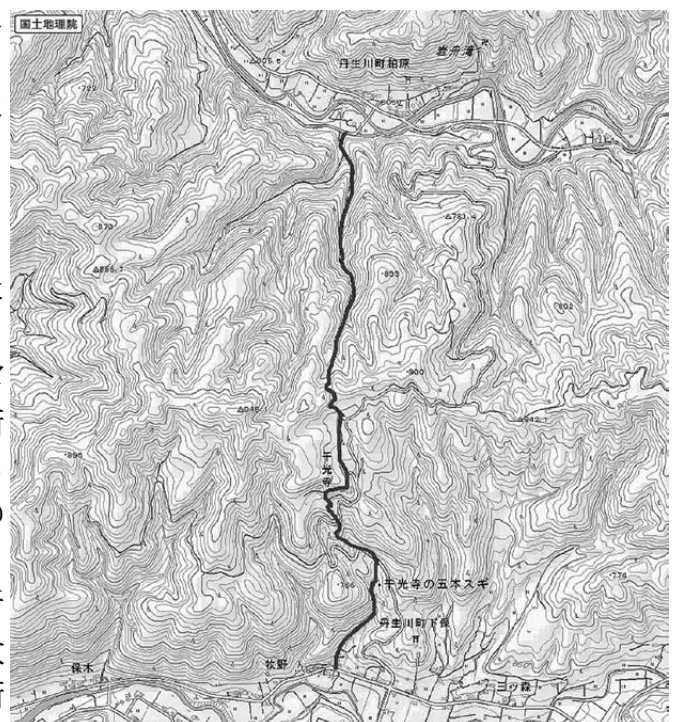




写真 1

この峠、柏原集落では「千光寺峠」、下保集落では「柏原峠」と呼んでいる。なお『斐太後風土記』には「一本椽嶺」とある。

まず荒城川沿いにある柏原集落側から入ることに。柏原という地名は、昔このあたり一面柏の木が茂っていたところを開田したことからついたという。峠入口付近にあるK家で道の様子を尋ねると、近年通った人などなく、かなり荒れているだろうとの話だった。

そばの公民館前に駐車させてもらい、小屋の横から入る（写真1）。やはり谷沿いの道は取りつきからひどいヤブで、途中でくじけそうになりながら漕いで進むが、道の形状は残っていた。途中でサングラスを紛失。

谷を左右に渡渉するところで道を見失い（写真2）、右の尾根に登るのを反対の尾根に取りき、さらに左へそれてしまったが、GPSで修正して戻ることができた。上部の森林帯に入るとヤブが薄くなり、歩き易くなる（写真3）。



写真 2



写真 3



写真 4

地形は次第に平らになり、大きい杉の木の下にポツンと石仏が鎮座しておられる峠に出た（写真4）。台座周辺の掃除をし、お参りをしたあと平坦な地形の杉林を進むと、千光寺の八十八ヶ所巡りの参道に飛び出た。

千光寺から峠道の東に付けられている下柏林道を歩いて柏原まで下る。この下保と柏原を結ぶ舗装された林道は、平成4年に完成していて、柏原峠道に取って代っている。

K家へ寄ると奥さん（72歳）がおられ、いろいろ話を伺うことができた。

「町方から郵便配達さんがこの峠を越えてやってきた」、「町方への買い物や、坊方の親戚へ行くのにこの峠を越えた」、「ある時坊方の親戚の子供が一人で峠を越えて来た時は心配した」、「集落から千光寺へお参りによくいったものだ」、「よく遠足に利用された」。

峠の話は、川向こうのU家のおじいさん



(90 歳) が詳しいので聞いてみるように言われ、訪問した。まだお元気な U さんからは以下の話を聞くことができた。

「古川や国府から千光寺へのお参りによく利用された」、「父親が炭を背負い、この千光寺峠を越えて上野平経由で高山の町まで売りに行った」、「千光寺峠入口すぐに右へ山道があり、これは旧国府町の三川へ抜ける峠道だった。峠は三川峠といったが、今は埋もれている」。

U さんの話で、国土地理院の地形図には載っていないが、柏原から旧国府町の三川へ通じる峠道があったことを知った。

別の日、千光寺側の下保集落から登ってみる。現在千光寺へは自動車道が付けられているが、昔の参道は自動車道入口から 300m ほど西に残っている。下保集落の人に聞くと、こちらでは柏原峠と呼んでいるとのこと。同集落の H さん (61 歳) は、「小学生の頃学校の先生に連れられて行った時 (昭和 40 年頃) は既に通る人がいなく、道が一部ヤブで埋もれていて道に迷ってしま



った覚えがある」と話してくれた。

旧道の石の山門を通過する (写真 5)。広い道はすぐにヤブに覆われていたが、それでも天然記念物の五本杉まで難なく歩けた (写真 6)。このあとは新参道の自動車道に寸断されていたが、途中から山門までの旧道が残っていたので歩く (写真 7.8)。

旧道は仁王門から境内に入り、先日出てきたところへつながっていた。なお仁王門下の右に大きい尾根が派生しているが、ここに鳥越砦があり、鳥越峠があったと言われている。永禄 7 年 (1564) 甲斐武田信玄の武将山県昌景が千光寺を焼き討ちしたと伝わるが、この時の砦跡らしい。

(現地調査日: 柏原側 = 令和元年 11 月 6 日・下保側 = 同年 11 月 9 日・初出『斐太記』24 号を改稿)

石仏探訪と今回の「飛騨の峠」の舞台が奇しくも同じ千光寺周辺。八丁坂はいにしえの峠道でもあったのですね。



結局今年もアサギマダラマーキング

松崎茂

今年のアサギマダラのマーキングは、緊急事態宣言期間中であつたため、急きょ中止としました。がしかし、中止と知らずに来られた方、あるいは勝手に集まる分には問題なかろうと現地に行った方等々、当日（9/5）チャオ周辺でアサギマダラを追っかけた人は結局 20 人以上にもなりました。中にはもうチャオへ 5 回も通っておられる猛者も……。

講師の鈴木さんや住之義さん親子も来ておられ、住さんは素人の私たちに前もって捕まえてあつたアサギマダラをマーキング用に分けてくださいました。

***** 今年の再捕獲情報です *****

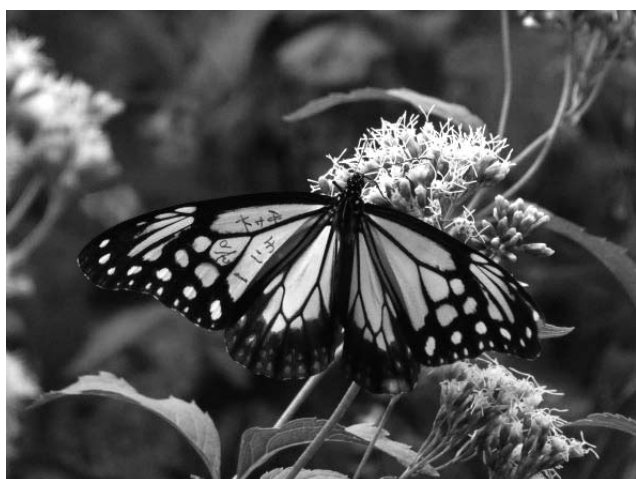
森晶子さん

- ・ 9 月 23 日 京都市右京区嵯峨越畑正権条→ 20 日間で西南西へ約 195km 移動
- ・ 10 月 8 日 山口県下関市豊浦町川畑→ 33 日間で西南西へ約 624km 移動

松崎葵くん

- ・ 9 月 30 日 石川県白山市瀬戸「アサギマダラ空の駅・白山」→ 25 日間で西北西へ約 84km 移動

この他住文乃さんと宝田延彦さんが捕獲した蝶（捕獲日は別）も再捕獲されたという報告をいただいています。



■ 会員を募集しています！ 年会費＝個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に入会をおすすめください
・ 郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 83 第号（秋号）2021 年 10 月 18 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL：0577-32-7206・FAX：0577-32-7207

下記 URL のページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/norikura.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：松崎 茂

E-mail: ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL：0577-34-4703

表紙写真提供：小池 潜

印刷：山都印刷